

## 第7章

# 個別支援計画



アセスメントを経て課題が明らかになると具体的な支援の方向性をまとめていく必要があります。

発達障害の特性を考慮した個別支援計画の考え方について紹介します。

# 個別支援計画の目的と考え方

様々な支援の現場で、「個別支援計画」が重視されるようになってきました。

## 個別支援計画の大きな目的は？

個々の特性に合わせた生活全般の一貫性のある総合的支援を構築するためにあります。

### 基本的な考え方

#### ノーマライゼーション

個々の特性に配慮しながら、様々な広がりのある生活機会を個別支援計画の中に盛り込みます。

#### 個別化

アセスメントによる個々の特性に応じた支援計画を作成します。生活内容、支援内容等、様々な点で個別化をはかります。

#### 保護者・当事者の参加

保護者・当事者も支援計画の協働チームとして考え、自己権利擁護、自己選択、自己決定等の視点を持った支援計画を作成します。

#### 生活スタイルを重視する

個々の生活環境、生活スタイルに合わせた個別支援計画でなくてはなりません。

# 個別支援計画のプロセス

## インテーク情報・スタートのアセスメント

- 本人や保護者から最初の情報収集や、周囲からの事前情報の収集
- 具体的なフォーマルアセスメント、インフォーマルアセスメントの実施

## 計画

- アセスメントやモニタリングを基にして生活全般の支援計画を立てます。
- 特性に合わせた支援や様々な場面での支援、課題や行動に対する具体的な計画も立てます。

※このガイドブックには、特性に関するシートと生活面に関するシートを付属しています。

## モニタリング

- 支援計画が適切なものかを評価するために、時期を決めて計画的にモニタリングを実施します。
- モニタリングの基準に関しては、支援計画を立てる段階で決めておく必要があります。

## 継続的なアセスメント

## 実施

- 計画を基に支援を実施します。
- 協働チーム間で共通認識し、様々な場面で一貫性のある支援を実施します。
- 支援を実施している時も継続的にアセスメントを行い、常に支援の調整を行います。

- モニタリングによって再アセスメントを行い、支援の調整を行っていきます。
- これらの内容を保護者を含めた協働チーム間で共通認識して進めていきます。

## 社会資源・ネットワークの活用・支援ミーティング

- 支援計画は、様々な社会資源を活用したり、様々な専門機関と連携を行ったりしながら進めることが重要です。
- 共通認識を持ち、一貫した視点で支援ができるようにネットワーク内の支援ミーティングが重要です。

# 個別支援ミーティングについて

## 個別支援ミーティングの目的

- 保護者を含む協働チーム間で、本人の生活や支援について一貫した視点を確認し、役割分担を明確にすることです。
- 問題となった行動が出た時の、対策としての支援のミーティングではなく、全てのニーズを持った発達障害のある人に必要なプロセスなのです。

## 個別支援ミーティングの個別化について

支援ミーティングも、個々の特性やニーズに合わせて個別化する必要があります。いくつかの例を挙げます。

- 参加者：本人、保護者、医療、労働、教育、事業所等
- 環境：場所の工夫、机の配置、本人の座る位置、感覚への配慮（明るさやにおい）等
- 中心になる内容・進行：特性理解、生活支援、課題の解決等
- 資料の個別化：特性の資料、サービス内容、生活に関して等

## 個別支援ミーティングの工夫（例）

### ● 視覚的な情報の活用

ホワイトボードや大きめのメモ用紙、パソコンやタブレット等を使うことで、ミーティングの内容を整理できます。視覚的な情報は、本人にとって分かりやすいものです。ミーティングの終了予定時刻も視覚的に提示すると良いでしょう。

### ● 席の配置の工夫

発達障害のある人の中には、多方向から情報が入ってくると混乱するケースもあります。本人を中心に席の配置を考える必要があります。  
⇒例えば、一番端に座ってもらう。

# 個別支援計画の作成

## 個別支援計画の目的は客観的に評価できるものにする

- 個別支援計画は、客観的に評価できる内容であることも大切です。
- 達成基準が明確になるような目標にすることです。漠然とし過ぎたものでは、評価がぼやけてきます。
- 具体的な数値、習得したいこと等を盛り込むと、達成基準が明確化されやすいです。
- 評価される時期に、当事者がどのようになっているのか（なってほしいか）をイメージして立てるとよいでしょう。

### 目標の例として...

- 落ち着ける場所や手段を見つける。
- 時計を確認しながら、日程に合わせて活動する。
- 予告を手立てに、終わりの切り替えができるようになる。
- 指定された活動場所で、支援者の声がかかるまで活動する。
- 2色を使って、見本通りに塗り絵を完成させる。

## 個別支援計画と連携

- 個別支援計画は、事業所内だけでなく、家庭、こども園、学校等でも活かせるものにする必要があります。
- 事業所での取り組みを家庭生活、こども園や学校での生活でどのように般化していくか、学校や家庭とも連携していくことが必要です。
- 同じ方向性・方法で支援をすることが、当事者が日常生活を送る上で、困ることが減り、生活の質の向上に繋がります。
- 例えばコミュニケーションの取り方一つとっても、声掛け、文字、絵カード、ジェスチャー、具体物等様々です。当事者に関わる人たちが連携し、同じ方法で支援していくことを実践していきましょう。